

平成29年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	嬉野市立塩田中学校		
2 所在地	嬉野市塩田町大字馬場下甲1801		
3 校長名	植松 正鋼		
4 学級数 児童生徒数	9学級 270人	5 実施学年 児童生徒数	2年 102人

6 取組のねらい

未来を担う子どもたちが人間の多様な個性や違いを理解して、相手を尊重する意識や思いやりの心を育む。また、UD体験などを通して、身近なところでUDが使われていることを意識させたい。

7 取組の実際

(1)ユニバーサルデザインについて知る。(5月24日)

・佐賀県ユニバーサルデザインラボからの資料や「動画：ユニバーサルデザイン～すべての人が快適に～」などを活用し、バリアフリーとの違いやUDの7原則について説明した。また、校内の写真を見てUDを探し出し、身近にあるUDについて考えさせた。



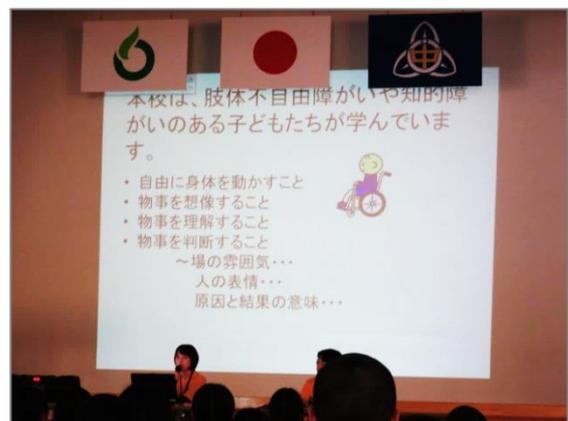
(2) 交流学习会

うれしの特別支援学校中学部の生徒との交流学习を通して、ともに協力したり、互いに触れ合ったりすることで仲間意識を深める。

うれしの特別支援学校内を見学し、いろいろな立場の人の視点から、多くの人が使いやすいように工夫されたところや、使いにくいところを発見する学習を行った。

① 交流学习会の事前学習会(6月12日)

うれしの特別支援学校について理解しておくことの説明や手話を取り入れた歌やダンスの練習を行った。



②交流学習会（6月29・30・7月3日）

自己紹介や、レクレーションなどを通して、互いに協力し、触れ合うことにより、仲間意識を深めた。



③「UDを探そう！！」

これまでに学習したUDについての学習を生かし、UDを取り入れた施設である。うれしの特別支援学校に見られるUDを探し、ワークシートにまとめた。

ユニバーサルデザインを探そう！！

2年1組 藤原 拓

見つけた場所	見つけたもの	7つの法則のどれ？
例：玄関	例：スロープ	(下の枠から番号を添え字) 法則番号 例：1, 7
① ろう下	スロープ	1, 7
② ろうハ	車いすでも 足がつかない	6, 1, 7
③ 教室	黒板 (ホワイトボード) が傾いていて 見にくい	1, 4, 5, 7

7つの法則
 1 誰にでも公平であること 2 情報があらかじめわかること
 3 使い方がわかりやすいこと 4 使う上で不要な部分がないこと
 5 よい能力がいらないこと 6 対象をさ、広さが異分であること
 7 安心・安全であること

◎今日の活動の中で一番感じたことや学んだことなど、あなたの思いをしっかりと書き留めておきましょう。

特別支援学校には、たくさんユニバーサルデザインがあって、とても感心しました。また、特別支援学校の人は明るく、元気で、休憩のときも、腕相撲やダンス、バスケットやバレーをしていて、本当に元気だと思いました。1人1人良いうちが、とても素敵だなと思いました。班で活動するときには、協力できたり、みんなと話して活動することができたのが良かったです。もういっしょには、自分から特別支援学校の友達をさそうことができたのが良かったです。また、一緒に班の人や、他の班の人とも話したりすることができ、仲良くなることができました。とても楽しく、ずーと遊んでいたくらいでした。また、行きたいです。

(3) 疑似体験（8月6日：親子ふれあい）

嬉野市社会福祉協議会から生活支援コーディネーターの方に来ていただき、その方々の指導の下、車椅子体験、妊婦体験、高齢者体験、ブラインドウォーク体験、認知症講習の5つを疑似体験した。生徒と保護者を合わせて3～5名のグループを作り、体験者、支援者、観察者の役割を交互に体験し、UDの大切さや支援者の必要性などを体験的に学習することができた。



(4) UDのアイデア作品

・ポスター制作

美術の授業で、生徒が様々なテーマの中から選択し、ポスターを制作した。



8 取組の成果と課題

① 成果

UDの学習やUD体験をしたことで、身近にあるUDについて気付くかことができた。体験活動や交流活動等を通して、障がい者や高齢者、妊婦などの不便さに気付くことができた。特に保護者と共に疑似体験をしたことで、生徒だけでなく家庭でも、UDについて考える機会をつくることができた。全体を通じて、いろいろな立場の人の視点から、多くの人が使いやすいように工夫されたところなどを考えることや体験することで、多様な個性や違いを理解することができた。

② 課題

ポスター作成等、UD啓発のための作品づくりは実施することができたが、実際の生活をより良いものにするためのアイデアを出す活動までには至らなかった。将来を担う生徒たちが、今回の体験活動等が種となり、将来よりよい街づくり等のアイデアを生み出すことを期待して、今後もUDを意識した活動を続けていきたい。